

事業評価書（事前）

事務事業名		萌芽的先端医療技術推進研究経費（トキシコゲノミクス分野）
事務事業の概要	(1)目的	健康寿命を延伸し、「生活習慣病」、「痴呆」や「寝たきり」を減少させるため、医薬品開発手法の確立を目的とする。
	(2)内容	ミレニアム・プロジェクトによる疾患遺伝子の解明、メディカルフロンティアによる疾患タンパク質の解明が進展しており、それらを基礎とした新薬の開発に向けた取り組みを推進するもの。 具体的には、ゲノム科学を応用した創薬技術（トキシコゲノミクス）分野における迅速・効率的な医薬品開発のスクリーニング手法、副作用回避手法等について研究開発を実施。
	(3)達成目標	予算額（案） 1,456百万円
評価	(1)必要性	〔国民や社会のニーズに照らした妥当性、公益性、官民の役割分担、緊要性の有無〕 新たな医薬品開発のためのスクリーニング手法を開発することは、画期的新薬の開発を促すものであり、我が国における医薬品産業を振興するためには必要なものである。総合科学技術会議においても、ゲノム創薬を活用すべきとされている。 また、高齢化の急速な進展の中で、健康寿命を延伸し、「生活習慣病」、「痴呆」や「寝たきり」を減少させることを目指す本施策は、国として積極的に取り組むべきものである。 なお、産業構造改革・雇用対策本部「中間とりまとめ」の「戦略基盤・融合技術分野への重点投入（産官学総力戦）」に該当する。
	(2)有効性	〔これまで達成された効果、今後見込まれる効果、効果の発現が見込まれる時期〕 本分野を重点的に推進することにより、開発される実用可能な新薬の成分が飛躍的に増加することとなり、その投資的意義は計り知れない。特許の取得も期待され、その利用により国内産業の成長に資することも期待される。 また、年間、開発される新薬が10数成分増加することが見込まれる。これにより、我が国における医薬品産業の振興が図られ、民間需要創出効果とともに、雇用創出効果も相当見込まれる。
	(3)効率性	〔手段の適正性〕 国においてスクリーニング手法、副作用回避手法という基礎的部分を開発することは、民間における研究の根本となるものであり、健康寿命の延伸や生活習慣病等の減少を効率的に果たすために適切な手法である。
	(4)その他 （公平性・優先性など）	
関連事務事業		
特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・経済財政諮問会議「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」（平成13年6月26日閣議決定） ・総合科学技術会議 重点分野推進戦略専門調査会「ライフサイエンス分野推進戦略」（平成13年8月30日）等 ・産業構造改革・雇用対策本部「中間とりまとめ」（平成13年6月26日決定）
主管課及び関係課		（主管課）大臣官房厚生科学課